

逗子の景観まちづくり

瓦版 第四十八号

平成二十七年十一月十三日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に

関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「時は流れても」

小学生のころ、日曜になるとよく父に連れられて弟と三人で披露山へ遊びに行った。自宅のあった逗子六丁目の電報電話局（今は建物だけが残る）



2015年10月
C120422

「披露山展望台につながる緑のトンネル」 絵 谷 守弘

の前から海岸へ出て、浪子不動、高養寺の脇から山を登るのだ。現在は整備されて歩きやすいが、当時（約四十年前）はもつと道も狭く、ちよつとした探検気分だったような気がする。

山道の終点は披露山の駐車場。そこからさらに坂道を上がり、公園（昭和三十三年開園）に到着。今よりスリリングな大型の遊具でひとしきり遊んだあと、猿を追いかけて丸い檻の回りをグルグル走った。あるとき、餌をあげていて、子猿に小指をかまれて泣きながら家に帰ったこともある。

展望台からの眺望は江の島、富士山を一望でき、逗子の自慢の光景だ。父からはその眺望を見降ろす位置に建つ「披露山庭園住宅」について、電柱も塀もない高級住宅地だと説明された。子ども心に「別天地」だと感じた。

披露山から小坪漁港のほうへ下りると逗子マリナーナ（昭和四十六年開業）の一群が風景を一変させる。真っ白なマンション群とヤシの木が綺麗に並ぶ。私の記憶の中ではもうそこにマリナーナがあったので、もともとの逗子の一角に感じられるが、きっと建設話が持ち上がったときにはたくさんの方の反対があったのではないかと想像できる。



「小坪浜とマリナーナ」 絵 木下 俊延

「景観」が変わるとは「暮らし」が変わるとのこと。時代に翻弄されて、「景観」が変わり、「暮らし」が変わらないことを願いたい。久しぶりに披露山に登って澄み渡る秋空の下、想いを巡らせた。

文 玄 真琴



逗子の景観を考える vol.16



「まちなみデザイン逗子」を発行して約1年半が経ち、これまでの取組みと今後の展望を逗子市景観審議会委員、ほととぎす隊景観部会※代表を務めている白鳥悦子さんに語っていただきました。

※「ほととぎす隊景観部会」とは、市民参加・参画により平成18年に策定された「まちづくり基本計画」を見守り育てていく市民団体組織の中で、特にまちづくりや景観の向上にかかわる活動をしています。

あおい山と海、低層で落ち着きのあるまち、それが逗子です。独特の明るい日差しと海風が癒しも心地良さももたらしてくれます。

20数年前より逗子ではバブル崩壊と金融引き締めの影響を受け、企業の保養所などが軒並み売却され、家並みの解体と土地の細分化が始まる、いわゆる“ミニ開発”が横行していました。この緑豊かな自然環境を破壊する無秩序な開発や地表のコンクリート化は逗子という個性を失い始めていました。

これまでの取組み

景観資源の発掘調査で訪ねたお宅で、丁寧な対応を受けたその奥には、通りからは決して見ることのできない井戸・祠・珍しい草花や秘話など…これぞ宝の山だ！と感動させられ、また、市内の児童との「まち歩き学習室」では、公園を巡った後、遊びの達人である子供目線による“楽しい公園”を模型にして発表しました。また、地域自治会の協力を得て行われた「(仮称)地域の魅力再発見」では、改めて地域の大切な場所や必要なものが見えてくるのです。そのように皆で問題を共有して話合う事から、心地よいまち並みづくりが始まるのだと感じられました。

まちなみデザイン逗子

「まちづくり基本計画」にある“逗子型モデル(デザイン)事業”とは風致に適合したデザインによる景観の向上を目的としています。

景観を考える本「まちなみデザイン逗子」はこれまでの活動なども盛り込み、今後みんなで景観を考える糸口となることを願い作成したものです。

理想とするまちづくりを実現するには、大きな目標を掲げ小さな努力の集積しかありません。好ましい基準を探し・見つけ、みんなで守り育てていく努力(忍耐)が必要となってきます。

例えば、まちのあちこちの街路樹には、腰を降ろせる“やすらぎの場”の創設、子供や大人たちが集える“たまりの場”にはチョットお洒落で心地良さ漂っていると素敵ですね。「まちなみデザイン逗子」にはそのヒントがたくさん載っています。

今後

私達はこれからもあらゆる機会に「まちなみデザイン逗子」をもとに、逗子のまちなみの有り方について語り合いながら、“逗子の楽しいまちなみモデル(基準)”をつくり続けて行きたいと考えています。

たとえば、「すてきな庭づくり」コンクールとか、まち中・道ばた緑化推進のためのアイデア募集(市民コンペ)や勉強会の開催や、サステナブル社会(環境共生、自然エネルギー利用、長寿命化、リノベーションなど)への対応としての「空き地・空き家」の積極的利用策などなど…アイデア満載です。

未来を担う子供達との「まちづくり学習」も積極的に進めて行きたいと考えています。私も参加してみたいと思われの方は大歓迎です！ご一報ください！！



海、住宅地、川、山
…歩くことで逗子が見えてきます。



瓦版の編集担当は 逗子市環境都市部まちづくり課

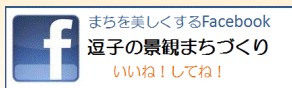
電話：046-873-1111 FAX：046-873-4520

Mail：machi@city.zushi.kanagawa.jp

逗子の景観まちづくり

検索

クリック！



☆瓦版のバックナンバーは逗子市庁舎一階、まちづくり課窓口、市民交流センターに配架しています。逗子市HP、逗子の景観まちづくりフェイスブックにもアップしていますのでご覧ください。